

## 共同研究の成果を公表する書籍の出版に当たって

慶應義塾大学多文化市民意識研究センター長  
小林良彰

平成20年6月に開始した地域の環境貢献に関する福井県との共同研究は、同年11月に慶應義塾大学で開催された「地球温暖化環境貢献共同研究」成果公表シンポジウムを経て、この度、研究成果を公表する刊行物として、福井県・慶應義塾大学編『地球温暖化と地域別環境貢献度』（慶應義塾大学出版会）を出版することになりました。

本共同研究は、二酸化炭素の排出削減、地球温暖化という人類共通のグローバルな社会的課題に、自治体と大学が共同で取り組み、エネルギー供給側の貢献度・需要側の排出削減度を数値化して地図上に表示し、自治体に対する交付税や、省エネ型機器導入に向けたインセンティブに関する政策提言を立案するとともに、電力エネルギーの負担地域と需要地域の格差を解消し、環境と経済の両立に向けたモデル地域プランを提案する意欲的なものでした。具体的には、電力使用時および電力供給量のCO<sub>2</sub>排出量から、1990年を基準年として環境貢献度を分析し、さらに、環境政策の担い手としての自治体を補助金や交付金といった形で国が支援する体制作りが必要であると考えております。

こうした共同研究の成果を通じて、福井県と慶應義塾大学が社会に対する知的貢献を目指し、共同研究から得られた知見を低炭素社会実現のために活かすための政策提言を行うために、本書を刊行することになりました。本書を通じて、わが国が環境に優しい社会を次世代に残すことができると願っております。